

Ⅱ 発展・強化が必要な社会的背景／Ⅲ組織の現状分析

「地域におけるセーフティネットを重層的に広げていく」という視点

「住民のさらなる主体形成を図っていく」という視点

「既存の地域組織・新しい公益活動団体間のより良いコミュニケーション」という視点

「市民のボランティア・市民活動への関わり方が多様になっている」という視点

「区ボランティアビューローの市民認知度6.5%…」という認知度の低さという視点

「地域主権の流れに対応する」という視点

大阪市社会福祉審議会答申「センター・ビューロー・コーナー構想」から30年が経過（1980年）

ボランティアビューローの強み・弱み

-
- ◎強み
地域密着性、組織内連携（個別支援-地域支援）
 - ×弱み
専門性が発揮しにくい環境

ボランティア情報センターの強み・弱み

-
- ◎強み
外部とのネットワーク
 - ×弱み
アウトリーチ、縦割り

Ⅳ ボランティアビューロー・ボランティア情報センターの発展・強化に向けて

の3つの提案と「強化すべき役割・機能」

1. 社協のボランティア・市民活動推進部門のミッションが内外に認知されるための「**ボランティア・市民活動センターへの名称変更**」
2. 住民の主体形成や福祉コミュニティの創造を追求するための「**住民参画の促進と運営委員会の設置・強化**」
3. 地域の中の“生きづらさ”“伝えられない困難さ”に寄り添い、福祉教育・ボランティア学習を深化させるための「**運営体制等の充実**」

3つの提案の展開イメージ

- ・ 2区社協程度+市センターでモデル先行
- ・ 提案事項を区・市センターで段階的に積み上げ
- ・ 2016年（市社協設立65周年）を目途に24区社協へ拡大を目指す

強化すべき機能（センターとして順次強化）

- 受け止める（相談・コーディネート）/知らせる（情報）/学ぶ（啓発）/高める（活動支援）/つなげる（ネットワーク・協働）/つかむ（調査・研究）/張り出す（サテライト化）

【区センター・市センターの役割】（再確認）

区センターは、地域密着性を最大限に活かすセンターとして、**さまざまな人や状況が抱える課題を解決に導く環境を作ること**

区域・地域のネットワークの拡大、重層化/課題と資源の顕在化とコーディネート/持続的・自律的な課題解決の仕組みづくり

市センターは、全国域ともつながる広域性を活かすセンターとして、**区センターを総合的かつ横断的にバックアップすること**

社会動向的確なキャッチと区センターへのリンク/市センターが有する資源の、区センター運営へのフル活用/連動的な協働による区センター支援

Ⅰ 社会福祉協議会のボランティア・市民活動推進部門のミッション（再確認）

1. すべての人々の主体性・個別性・連帯性が尊重され社会参加、自己実現をめざす市民社会の創造
2. 誰もが住みやすい福祉コミュニティを創造するためのプラットフォームの構築
3. 地域社会に密着し、日常生活の営みの中から生じる“生きづらさ”“伝えられない困難さ”に応える人権擁護
4. 地域福祉の推進と市民社会の成熟をめざした福祉教育・ボランティア学習の展開